

JAPANESE
HEART
FAILURE
SOCIETY

JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

News Letter

1997, No.2

発行：1997年8月15日
日本心不全学会事務局
Japanese Heart Failure Society

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学研究科循環病態学内
Tel. 075-751-3185 Fax. 075-752-0856

CONTENTS

- 3 第1回日本心不全学会総会開催にあたって—日米欧における心不全学の動向—
- 4 第1回日本心不全学会総会ならびに学術集会開催のご案内(第2報)
◇会 期：1997年10月10日(金)～12日(日)
◇会 場：国立京都国際会館
京都市左京区宝ヶ池 Tel: 075-705-1234
◇会 長：篠山 重威
- 6 プログラム
- 10 最近の心不全メガトライアルから
- 11 宿泊施設のご案内

第1回日本心不全学会総会開催にあたって
— 日米欧における心不全学の動向 —

日本心不全学会
理事長 篠山 重威

心不全は先進国では医療上の大きな問題となっており、早急にその対策が求められている。心不全患者はこれらの国では全人口の1~4%と推定されており、加齢と共に指数関数的に増加している。心不全で一番問題となるのは、その予後が極めて不良であり、死亡率が高いことである。また、神経体液系、内分泌系、および免疫系の異常を伴う複雑な症候群でもある。心不全に関して、最近分子生物学的な技術の進歩がもたらした新しい知見だけでなく、多くの側面が明らかにされてきたが、なお未解決の問題があまりにも多く残されている。

このような状況下に、心不全に関して臨床的および基礎研究両面で、更に充実した研究を推進するための新しい体制を築こうという運動が発生した。最初にこのような活動を現実のものとしたのはヨーロッパであった。1995年にヨーロッパ心臓学会のタスクフォースとして心不全が取りあげられ、オランダのW. Remmeを中心にして大きな組織が構成された。その年の4月にAmsterdamで基礎研究者、臨床家、免疫学者、その他心不全に興味をいだく全ての人たちが一堂に会して、心不全をあらゆる角度から検討する会が持たれた。そこには世界各地から多くの人たちが集まって、大変な反響を呼んだ。そして本年5月にドイツのKölnで第2回目の会が開催された。513の一般講演、48のシンポジウム、9つの企業によるサテライトシンポジウムで構成され、3日間で4000人近い出席者を数えた大きな会であった。およそ心不全を考えるとときに名前のある研究者のほとんどが世界中から集まったといってもよい。Apoptosis、代償性心肥大から心不全への移行の機序、内皮細胞の機能、心肥大の分子機序、Caホメオスターシス等に関する基礎研究も多く発表されたが、何といても大きな話題はCarvedilolとAngiotensin II Type I受容体拮抗薬の心不全生存試験の成績に関するものであった。VESTやDIGなど強心薬に関する最近のデータも話題となった。第1回にくらべて第2回はその質、量、国際性も格段の発展が見られたという評判であった。第3回の会は1999年にスウェーデンのGöteborgで開催されることが決まっている。

一方、アメリカにおいてはJ. Cohnらを中心にしてアメリカ心不全学会が1995年に設立され、その第1回の総会が本年9月22日から3日間の予定でBaltimoreで開催される。心筋のホメオスタシス、心不全の動物モデル、運動を制御する因子、治療、心臓移植、肥大と収縮に関する分子生物学、vascular biology、新しいデバイスと外科的治療、免疫、肥大から心不全への移行、心筋のバイアビリティ、リモデリング、神経体液系物質など多くのテーマに関して、80の招待講演が企画されている。また、1)ジギタリスは心不全にとって基本的な薬物か、2)心臓移植は重症心不全の最善の治療法か、などに関するdebateも予定されている。

日本心不全学会もちょうど時を同じくして発足したことになる。そして、第1回の年次総会もアメリカ心不全学会の2週間後から開始されることになる。ヨーロッパのタスクフォースやアメリカ心不全学会の創設にかかわった人たちが現会長も参加してくれる予定になっている。アメリカ心不全学会と日本心不全学会はJournal of Cardiac Failureという雑誌を機関誌として共有することに決まった。日米欧の3極が一体となって今後の心不全の研究と治療の開発に貢献できればよいと思う。この記念すべき第1回の総会を是非成功させたいものと念じている。

日本心不全学会組織

○理事長	篠山重威	木全心一	篠山重威	白土邦男	杉下靖郎	竹下 彰
○理事	北島 顕	松崎益徳	矢崎義雄	横山光宏		
藤原久義	松尾裕英	飯塚昌彦	飯沼宏之	石井當男	石川恭三	
○評議員	相澤義房	阿部圭志	井上通敏	今泉 勉	岩坂壽二	
石川欽司	和泉 徹	井上 博	大川真一郎	奥村 謙	尾本良三	
岩崎忠昭	遠藤政夫	大江 透	小川 聡	河村慧四郎	神原啓文	
梶谷定志	片桐 敬	上松瀬勝男	茅野真男	児玉和久	小林 正	
菊池健次郎	木之下正彦	北島 顕	木全心一	沢山俊民	島田和幸	
小柳左門	齊藤大治	齋藤宗靖	篠山重威	関口守衛	芹澤 剛	
島本和明	白土邦男	杉下靖郎	砂川賢二	田中弘允	谷口興一	
外畑 巖	高野照夫	滝澤明憲	竹越 襄	外山淳治	豊岡照彦	
田村康二	土肥和紘	土居義典	柘山幸志郎	野々木宏	延吉正清	
永井良三	中川雅夫	中野 赳	西尾一郎	口和田邦男	藤田正俊	
土師一夫	林 博史	半田俊之介	菱田 仁	増田善昭	松尾修三	
藤原久義	細田泰之	堀 正二	本田 喬	馬淵 宏	丸茂文昭	
松尾博司	松尾裕英	松岡博昭	松崎益徳	村山正博	望月正武	
丸山幸夫	三浦 傳	道場信孝	光藤和明	矢野捷介	山口 洋	
本宮武司	盛岡茂文	矢崎義雄	泰江弘文			
横田慶之	横山光宏	吉川純一	李 鐘大			

賛助会員一覧 (平成9年8月1日現在、五十音順)

エーザイ株式会社	大塚製薬株式会社	サントリー株式会社	塩野義製薬株式会社
ゼネカ薬品株式会社	大鵬薬品工業株式会社	田辺製薬株式会社	第一製薬株式会社
株式会社第一ラジオアイソトープ研究所		財団法人体質研究会	大正製薬株式会社
大日本製薬株式会社	日本モンサント株式会社	萬有製薬株式会社	ファイザー製薬株式会社
フクダ電子株式会社	丸石製薬株式会社	明治製薬株式会社	持田製薬株式会社

第1回日本心不全学会総会ならびに学術集会開催のご案内(第2報)

上記総会ならびに学術集会を下記のように開催いたしますので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

会 期：1997年10月10日(金)～12日(日)

会 場：国立京都国際会館

京都市左京区宝ヶ池 Tel: 075-705-1234

会 長：篠山 重威

- 特別講演 Jay Cohn (University of Minnesota)
真崎知生 (京都大学)
- 外国人招請者 Jay Cohn (University of Minnesota) 米国心不全学会々長
Willem Remme (University of Groningen) 欧州心不全研究会々長
Edward Gilbert (University of Utah)
Arnorld Katz (University of Connecticut)
William McKenna (St George's Hospital Medical School)
Christopher O'Connor (University of Duke)
Richard Walsh (University of Cincinnati)
Gary Francis (University of Minnesota)
- プレナリーセッション
 - 心不全とレニンアンジオテンシン系
 - 心不全とサイトカイン・NO
 - 心筋リモデリングの情報伝達
 - 心肥大から心不全へ
- 一般演題(ポスター発表)
- Young Investigator Award
- ランチョンセミナー
 - 心不全のβ遮断薬治療
 - 心不全とアンジオテンシンII受容体拮抗薬
 - 心不全における心臓死の予防
 - 心不全の病態把握における脂肪酸代謝イメージング
- サテライトシンポジウム
 - 慢性心不全治療の新しい展望
 - 急性心不全の基礎と臨床
- ポストコンgresシンポジウム
 - 第5回 心不全の病態と治療研究会

主 催 日本心不全学会
共 催 財団法人 日本心臓財団
後 援 社団法人 日本循環器学会

- I. 理事会・評議員会： 10月9日16時30分～17時30分 於：スワン
- II. 日本心不全学会総会： 10月10日12時00分～12時30分 於：第1会場
- III. YIA授与式： 10月12日11時45分～12時00分 於：第2会場

IV. 一般演題(ポスターセッション)のご案内

本学会の一般演題の発表はすべてポスター形式による口述発表とします。

■座長の方へ

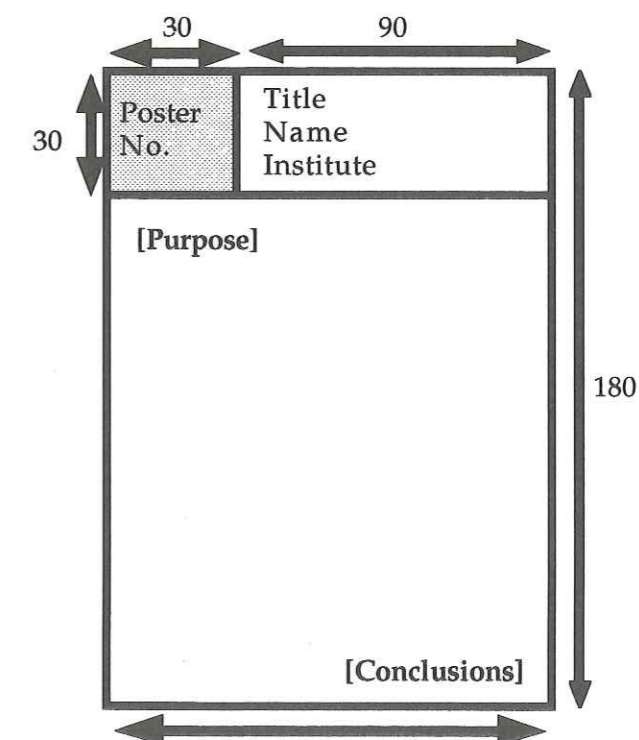
- 1) 1人座長制です。
- 2) 担当セッションの開始15分前までに各会場の「座長受付」までお出で下さい。座長用リボンをお渡しします。
- 3) 不測の事態により座長をお務めいただけない場合は、代理を立てていただいた上で、担当セッションの開始15分前までに「学会本部」または各会場の「座長受付」まで必ずその旨連絡して下さい。

■発表者へ

- 1) 発表者受付は特に行いません。発表者用リボンは掲示用パネルに押しピンで留めてありますので、該当する演題番号が記された掲示用パネルより取って胸に付けて下さい。
- 2) ポスターの掲示期間は1日(午前10時～午後5時)です。掲示は午前9時～10時に、撤去は午後5時～6時に行ってください。
- 3) 発表・討論時間は学会第1日目、第2日とも前半午後1時40分、後半午後2時20分からです。発表者は各セッション開始の10分前までにポスターの前に集まって下さい。
- 4) ポスターセッションは座長による総合討論形式で行います。ポスター発表の持ち時間は1題につき8分(発表時間4分、討論時間4分)です。
- 5) ポスターは下記の要領にて作成して下さい。
 - 1演題ごとのパネルは縦180cm×横120cmで、演題番号(30cm×30cm)はあらかじめ事務局で提示しておきます(下図参照)。
 - 外国からの参加もありますので、表示言語は出来る限り英語を使用して下さい。離れたところからでも判読できるように、文字の大きさや図表、文字のレイアウトを考慮して下さい。なお、「Purpose」、「Methods」、「Results」、「Conclusions」などを明確にし、「Purpose」は左上部に、「Conclusions」は右下部に記載して下さい。

ご不明な点がございましたら
下記にお問い合わせ下さい。

京都大学医学研究科
循環病態学講座内
第1回日本心不全学会事務局
TEL: 075-751-4255/3185
FAX: 075-752-0856



V. プログラム

平成9年10月10日(金)

- 8時45分 ●開会式
 会長挨拶 篠山重威(京都大学)
 米国心不全学会会長挨拶 Jay Cohn(Univ. of Minnesota)
 欧州心不全研究会会長挨拶 Willem Remme(Univ. of Groningen)
- 9時00分 ●特別講演(1) 座長:篠山重威(京都大学)
 ~9時45分 Left ventricular remodeling: Hemodynamic, hormonal, cellular and molecular contributions to the progression of heart failure
 Jay Cohn(Univ. of Minnesota)
- 10時00分 ●プレナリーセッション(1)
 ~11時50分 「心不全とレニンアンジオテンシン系」 座長:北畠 彰(北海道大学)
 堀 正二(大阪大学)
- 1) The renin-angiotensin-aldosterone system in heart failure: Is ACE inhibition our primary target? Willem Remme(Univ. of Groningen)
 2) 圧負荷肥大心のパターンとレニンアンジオテンシン系
 松崎益徳(山口大学)
 3) 心血管病変とキマーゼ 浦田秀則(福岡大学)
 4) 心筋組織アンジオテンシンと心不全 川口秀明(北海道大学)
 5) アンジオテンシン受容体の新しい展開
 「分子・個体レベルでの発現調節・病態形成・生理作用」
 松原弘明(関西医科大学)
- 12時00分 ~12時30分 ー心不全学会総会ー
- 12時40分 ●ランチョンセミナー(1)
 ~13時30分 「心不全のβ遮断薬治療」 座長:細田 瑛一(日本心臓血圧研究振興会)
- 1) 拡張型心筋症におけるβ-blocker投与の適応と治療効果
 伯耆 徳武(大阪府立病院)
 2) Rationale for the use of β-blocker in heart failure
 Edward Gilbert(Univ. of Utah)
- 12時40分 ●ランチョンセミナー(2)
 ~13時30分 「心不全とアンジオテンシンII受容体拮抗薬」
 座長:木全心一(東京厚生年金病院)
- 1) アンジオテンシンII受容体拮抗薬の薬理
 宮崎端夫(大阪医科大学)
 2) 心不全治療におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の位置づけ
 高野照夫(日本医科大学)
- 13時30分 ●一般演題(1)(ポスター訪問)
 ~15時30分

- 15時30分 ●プレナリーセッション(2)
 ~17時20分 「心不全とサイトカイン・NO」 座長:竹下 彰(九州大学)
 横山光宏(神戸大学)
- 1) Etiology and pathogenesis of dilated cardiomyopathy
 William McKenna(St George's Hospital Medical School)
 2) IL-6関連サイトカインの情報伝達ー不全心筋とのかかわりー
 瀧原圭子(大阪大学)
 3) 炎症性サイトカインと心機能障害 下川宏明(九州大学)
 4) 自己免疫性心筋障害とサイトカイン・NO 和泉 徹(北里大学)
 5) 心不全治療とサイトカイン・NO 松森 昭(京都大学)
- 17時50分 ●サテライトシンポジウム(1)
 ~19時30分 「慢性心不全治療の新しい展望」 座長:Jay Cohn(Univ. of Minnesota)
 松尾裕英(香川医科大学)
- 1) Suggestions from the results of DIG trial Jay Cohn(Univ. of Minnesota)
 2) 慢性心不全と神経体液性因子 泰江弘文(熊本大学)
 3) 心筋エネルギー代謝からみた不全心 菅 弘之(岡山大学)
 4) Recent insight into positive inotropic agents
 Willem Remme(Univ. of Groningen)

平成9年10月11日(土)

- 9時00分 ●特別講演(2) 座長:篠山重威(京都大学)
 ~9時45分 「エンドセリンの発見と展開」
 真崎知生(国立循環器病センター)
- 10時00分 ●プレナリーセッション(3)
 ~11時50分 「心筋リモデリングの情報伝達」 座長:杉下靖郎(筑波大学)
 藤原久義(岐阜大学)
- 1) Signal transduction, remodeling, and the cardiomyopathy of overload
 Arnold Katz(Univ. of Connecticut)
 2) エンドセリンファミリーの構造と病態生理
 平田結喜緒(東京医科歯科大学)
 3) 機械的刺激による心肥大の情報伝達 小室一成(東京大学)
 4) 心不全の病態とエンドセリン 宮内 卓(筑波大学)
 5) 心不全における心筋線維化の分子機構 大津欣也(大阪大学)
- 12時40分 ●ランチョンセミナー(3)
 ~13時30分 「心不全における心臓死の予防」 座長:早川弘一(日本医科大学)
- 1) Application of molecular genetic advances in the management of hypertrophic cardiomyopathy
 William McKenna(St George's Hospital Medical School)
 2) アミオダロンの長期投与:日本での経験
 笠貫 宏(東京女子医大)

- 12時40分 ~ 13時30分 ●ランチョンセミナー(4)
 「心不全の病態把握における脂肪酸代謝イメージング」
 座長：西村恒彦(大阪大学)
- 1) 動物モデルにおける¹²³I-BMIPPの実験的検討
野原隆司(京都大学)
 - 2) 心不全における¹²³I-BMIPPの臨床的意義
石田良雄(国立循環器病センター)
- 13時30分 ~ 15時30分 ●一般演題(2)(ポスター訪問)
- 15時30分 ~ 17時20分 ●プレナリーセッション(4)
 「心肥大から心不全へ」
 座長：白土邦男(東北大学)
 松崎益徳(山口大学)
- 1) Molecular mechanism for the transition between cardiac hypertrophy to heart failure
Richard Walsh (Univ. of Cincinnati)
 - 2) 不全心における筋小胞体カルシウム制御蛋白
筒井裕之(九州大学)
 - 3) ペーシング刺激誘発性心不全とGs/Gi蛋白
木内 要(日本医科大学)
 - 4) 心不全とアポトーシス
沢 芳樹(大阪大学)
 - 5) 心肥大から心不全への移行とカルシウムハンドリング
加賀谷豊(東北大学)
- 17時50分 ~ 19時30分 ●サテライトシンポジウム(2)
 「急性心不全の基礎と臨床」
 座長：Gary Francis (Univ. of Minnesota)
 堀 正二(大阪大学)
- 1) Molecular mechanisms for heart failure
Richard Walsh (Univ. of Cincinnati)
 - 2) 強心薬の薬理作用と選択
遠藤政夫(山形大学)
 - 3) 左室容積関係から見た急性心不全の病態と治療
後藤葉一(国立循環器病センター)
 - 4) Acute Heart Failure: Why does it happen? Who gets Better? Why?
Gary Francis (Univ. of Minnesota)

平成9年10月12日(日)

- 9時00分 ~ 9時30分 ●YIA 審査講演
 座長：篠山重威(京都大学)
- 9時40分 ~ 11時40分 ●ポストコンgresシンポジウム
 「第5回 心不全の病態と治療研究会」
 代表世話人挨拶 安田 寿一(北海道大学)
 座長：篠山重威(京都大学)
 豊岡照彦(東京大学)
- 「心不全治療の新しい展望-21世紀に向けて」
- 1) Heart Failure in 2007: An Updated Prophecy
Arnold Katz (Univ. of Connecticut)
 - 2) Vascular Biology からの提言
永井良三(群馬大学)
~休憩~
 - 3) Suggestions from the Results of PRAISE Trial
Christopher O'Connor (Univ. of Duke)
 - 4) 神経体液因子からみた心不全治療
木之下正彦(滋賀医科大学)
- 11時45分 ~ 12時00分 ●YIA 授与式・閉会式

	第1日 10月10日(金)				第2日 10月11日(土)				第3日 12日(日)
	第1会場	第2会場	第3会場	第4,5会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4,5会場	第2会場
9:00	受付 8:00 ~ 開会式 8:45				受付 8:30 ~				受付 8:30 ~
9:30	特別講演(1) 9:00~9:45				特別講演(2) 9:00~9:45				YIA 審査講演 9:00~9:30
10:00	プレナリー セッション(1) 10:00~11:50			10:00~ ポスター 掲示	プレナリー セッション(3) 10:00~11:50			10:00~ ポスター 掲示	ポストコンgresシン ポジウム 心不全の病態と治療 研究会 9:40~11:40
11:30	総会 12:00~12:30								YIA 授与式・閉会式 11:45~12:00
12:30		ランチョン セミナー(1) 12:40~13:30	ランチョン セミナー(2) 12:40~13:30		ランチョン セミナー(3) 12:40~13:30	ランチョン セミナー(4) 12:40~13:30			
14:00				一般演題 ポスター 発表(1) 13:30~15:30			一般演題 ポスター 発表(2) 13:30~15:30		
15:30	プレナリー セッション(2) 15:30~17:20				プレナリー セッション(4) 15:30~17:20				
17:00				17:00~ ポスター 撤去				17:00~ ポスター 撤去	
18:00		サテライト シンポジウム (1) 17:50~19:30				サテライト シンポジウム (2) 17:50~19:30			

付設展示会場 1階 スワン 10日~12日

最近の心不全メカトリアルから

ここでは本年度発表された心不全およびこれに関連した5つの多施設試験を紹介する。

●EMIAAT¹⁾は、Europeのgroupが、recentな心筋梗塞に左室機能不全を合併した患者における、抗不整脈薬Amiodaroneのその後の死亡率に対する効果を、Placeboとの二重盲検で検討したTrialである。Amiodarone群では総死亡率、心臓死に対する改善はないものの、不整脈発生の危険率が35%低下することを報告している。またCAMIAT²⁾では、Canadaのgroupが急性期に心室期外収縮の多発、連発がみられた心筋梗塞患者におけるAmiodaroneの有効性を、Placeboとの二重盲検で検討している。Amiodarone群で心室細動蘇生例あるいは不整脈発生の危険率が48.5%低下し、この効果は、心不全を合併した患者あるいは過去に心筋梗塞の既往のある患者に著しい傾向があった。

この2つのTrialでは、ともにAmiodaroneが心筋梗塞患者における致死的不整脈の発生、あるいは不整脈死を減少させている。一方、総死亡率に対しては、心不全患者を対象としたGESICA試験でAmiodaroneは死亡率を有意に低下させているのに対し、CHF-STAT試験では、これを低下させないという相反するデータが報告され、EMIAAT、CAMIATは後者を追認している。GESICA試験には非虚血性心疾患が多く、CHF-STAT試験では虚血性心疾患が多く含まれること、EMIAAT、CAMIATはいずれも虚血性心疾患を対象としていることを考えると、Amiodaroneの総死亡率に対する効果は対象患者により異なることを示唆している可能性がある。

●ELITE³⁾では65歳以上の心不全患者におけるAngiotensin II受容体阻害薬LosartanとACE阻害薬Captoprilの安全性、有効性を二重盲検で比較検討している。高齢者において腎機能の悪化の程度は、両群に差はないものの、咳などの副作用はLosartan群で有意に低下がみられ、Losartanがより安全性の高い薬であることが示された。また、このTrialでは48週という短い観察期間ながら、Losartan群ではCaptopril群に比しても全死亡率を46%低下させたという、興味深い知見も得られている。しかし、46%の低下は両群の死亡数が少なく(352例中17例[4.8%] vs 370例中34例[8.7%])、特にLosartan群で突然死が少ない(5例 vs 14例)ことによる統計上の影響が大きいと思われる。ELITEはAngiotensin II受容体阻害薬の臨床効果を検討した重要なTrialであるが、Angiotensin II受容体阻害薬とACE阻害薬の全死亡率、疾病率に関する優劣は、心不全の病態を解明する上でも重要な問題であり、今後、患者母集団のより大きい、長期投与による試験結果を基にした慎重な評価が必要である。

●β遮断薬の心不全に対する有効性に関して、Biso-

prololの効果を検討したCIBIS Trialでは、非虚血性心疾患による心不全患者でのみ有意に生存率(死亡率)が増加(低下)している。一方、Carvedilolの効果を検討したUS Carvedilol Heart Failure Studyの報告では、虚血性、非虚血性の如何を問わず、死亡率を減少させている。今回Australia/New Zealandの研究group⁴⁾から、虚血性心疾患を基礎にもつ慢性心不全患者におけるβ遮断薬Carvedilolの有効性を、Placeboとの二重盲検で検討した報告がなされている。このTrialでは、Carvedilol群でPlacebo群に比し、左室機能の有意な改善が12ヶ月後に見られるにもかかわらず、運動耐容能や症状、心不全悪化の頻度に両群間に差が認められていないのが特徴である。さらに死亡または入院をあわせた危険率は、Carvedilol群で26%低下が認められているが、死亡に限ると両群間の差はみられない。これら3つのTrialの結果からβ遮断薬は心不全治療薬としての安全性に問題のないこと、ある疾患群については死亡率を確実に減少し得ることは認められたといえよう。しかし、β遮断薬を第一義的な治療薬として使用するべきか、またCarvedilolのようなα遮断作用を合わせもつ薬が、他のβ遮断薬より優れているか否かについてはさらに論議を要すると思われる。

●多数の心不全患者が登録されその結果が注目を集めていたDIG Study⁵⁾は、洞調律心不全患者におけるDigoxinの有効性をPlaceboと比較した二重盲検試験である。PROVEDやRADIANCEに比し、観察期間が37ヶ月にわたっていること、withdrawalな評価ではないことがこの試験のポイントである。DIG StudyではDigoxinは総死亡率を低下させないものの、心不全悪化による死亡あるいは入院を有意に減少させることがわかった。したがって現在の所、Digoxinは総死亡率を増加させないことが判明した唯一の強心薬であるということができ、ACE阻害薬同様、心不全治療の基本として使用すべき薬であることが裏づけられた。

最近、心不全の進展におけるサイトカインの役割が注目されているが、カルシウム拮抗薬Amlodipineの有効性を明らかにしたPRAISE Trialの対象患者のSubgroupにおいて、血中TNF-αとIL-6の動態が検討されている⁶⁾。それによるとAmlodipine群では26週後、Placebo群に比しIL-6が低値を示すことが報告されている。対象患者も限られており、その意義は不明であるが、Subgroupとはいえ大規模試験の中に、このようなアプローチを付加していくことは極めて重要であるといえよう。

[参考文献]

1. Lancet 1997;349:667-74
2. Lancet 1997;349:675-82
3. Lancet 1997;349:747-52
4. Lancet 1997;349:375-80
5. N Engl J Med 1997;336(8):525-33
6. J Am Coll Cardiol 1997;30:35-41

第1回 日本心不全学会

〔御宿泊のご案内〕

この度、第1回日本心不全学会総会に参加されます皆様方の御宿泊のお世話を、私共JTB京都支店で取扱わせて頂くこととなりました。

私共では、学会用特別割引料金でお部屋を皆様にご案内申し上げております。ご希望の皆さま方は、お早めにお申し付けくださいますようお願い致します。

宿泊期間：1997年10月9日(木)～10月12日(日) 3泊
料 金：一泊朝食付、税金サービス料込み、お一人様当りの設定です。
全ホテル バス・トイレ付き

クラス	番号	ホテル名	料 金	
			TWIN	SINGLE
A	①	京都宝ヶ池プリンスホテル	11,000	*18,000
	②	都 ホ テ ル	15,500	*20,500
	③	京 都 ホ テ ル	16,500	19,500
	④	京都全日空ホテル	11,500	14,000
B	⑤	京都リーガロイヤル	11,500	*18,000
	⑥	京都国際ホテル	13,000	14,500
	⑦	京都ロイヤルホテル	10,500	11,500
	⑧	からすま京都ホテル	9,500	-----
	⑨	ホリディイン京都	10,000	*15,500
	⑩	ホテル京阪京都	9,600	10,500
C	⑪	全日空バステル京都	9,500	9,500
	⑫	ギンモンドホテル	8,500	9,500
	⑬	京都ガーデンホテル	-----	9,000
	⑭	ホテルサンルート京都	-----	9,500
	⑮	サンホテル京都	7,500	8,500
	⑯	ホテルアルファ京都	7,500	8,500

*:ツインの一人使用

お申込〆切日 1997年 09月 20日(土)

お申込方法

現金書留 : 宿泊申込書に必要事項を御記入のうえ、宿泊予約金(1部屋につき、10,000円)及び通信手数料(お一人様 500円)を添えて、現金書留にてお申込下さい。後程宿泊確認書をお送りします。

クレジットカードの場合 : 宿泊申込書に必要事項を、及びカード名、カード番号、有効期限を御記入のうえ、お申込下さい。(FAXにてのお申込みも受けております。)宿泊予約金(1部屋につき、10,000円)及び通信手数料(お一人様 500円)を引落しのうえ宿泊確認書を送付致します。

取消料

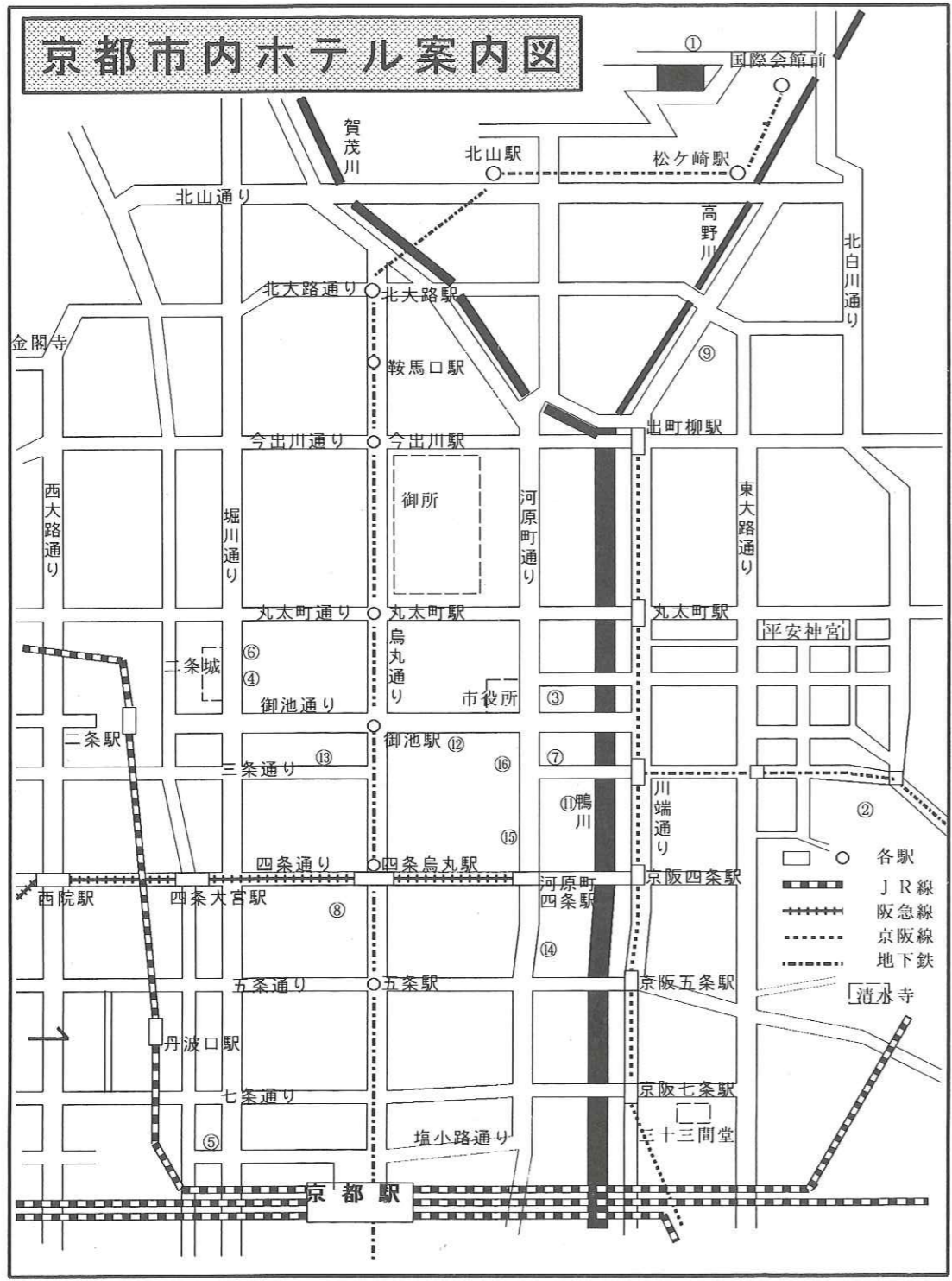
取消及び変更は、書面もしくは、FAXにてお早めにご連絡ください。下記の取消料を差し引いた残額を後日ご返金致します。

宿泊日の9日前まで	2日から8日前まで	当日・不泊
1,000円	宿泊料金(1泊)の20%	100%

お申込、お問合せ先

〒600 京都市下京区東塩小路町JR京都駅前 菊岡屋ビル5F
JTB京都支店 第1回日本心不全学会総会係
TEL: 075-361-7241 (月-金、9:00-17:00)
FAX: 075-341-1028

京都市内ホテル案内図



◇ 会場
京都国際会議場

○ JR京都駅より地下鉄烏丸線にて国際会館前下車 駅より徒歩5分

宿泊利用ホテル

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| ① 宝ヶ池プリンスホテル | ⑥ 京都国際ホテル | ⑪ 全日空バステルホテル |
| ② 都ホテル | ⑦ 京都ロイヤルホテル | ⑫ ギンモンドホテル |
| ③ 京都ホテル | ⑧ からすま京都ホテル | ⑬ 京都ガーデンホテル |
| ④ 京都全日空ホテル | ⑨ ホリデイイン京都 | ⑭ ホテルサンルート京都 |
| ⑤ 京都リーガロイヤル | ⑩ ホテル京阪京都 | ⑮ サンホテル京都 |
| | | ⑯ ホテルアルファ京都 |

No.

第1回日本心不全学会総会 宿泊申込書

以下のとおり申込ます。

申込日 年 月 日

代表者氏名	所属
郵便物送付先住所 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅	
1	
TEL:	FAX:

ふり仮名 氏名	宿泊日			第1希望 ホテル	第2希望 ホテル	部屋 タイプ	宿泊 予約金
	10-9	10-10	10-11				
						S	T
						S	
						S	T
						S	
						S	T
						S	
						S	

S:シングル T:ツイン
希望の所へ○印をお付け下さい。

500円×人
合計

◎ 支払方法 現金書留 クレジットカード

私は、支払を下記カードにて行います。 御署名 印

利用カード会社	有効期限及びカード番号
J T B カード	V I S A
ダイナース	U C カード
日本信販	D C カード
J C B	ミリオンカード
	有効期限 19 年 月

お申込、お問合せ先

〒600 京都市下京区東塩小路町JR京都駅前 菊岡屋ビル5F
JTB京都支店 第1回日本心不全学会総会係
TEL: 075-361-7241 (月-金、9:00-17:00)
FAX: 075-341-1028